

オホーツクからのゼロエミッションを発信 ～オホーツクEV推進協議会活動とりまとめ 概要～

【協議会概要：平成22年12月設立】

●背景

- ▶ オホーツク地域は、世界自然遺産知床を始めとした多様な観光資源を有し、美しい自然を求め、国内外から多くの観光客が訪れる地域である。
- ▶ 人や物資の移動が自動車交通に強く依存している北海道においては、観光周遊の面においても環境保全との調和が強く求められている。
- ▶ 環境面から我が国の自動車事情に目を向けると、今後の環境対応車となる電気自動車(EV)の普及の重要性が高まっている。
- ▶ オホーツク地域が目指す自然環境と観光が調和した新たな観光モデルの構築により地域振興への寄与が求められている。



【目的】オホーツク連携地域が目指す自然環境と観光が調和した新たな観光モデルの構築とそれによる地域振興

行動目標1:オホーツク地域におけるEVを利用した観光モデルの検討と実践

行動目標2:オホーツク地域におけるEV利用のためのインフラ整備・運用に関する検討と実践

行動目標3:オホーツク地域におけるEV普及のための活動

【これまでの活動の概要：平成22年度～平成25年度】

主な活動項目	概要
1. モニター実験 (→行動目標1, 2に対応)	オホーツク地域におけるEV走行・運用の実現、実走行データ収集整理(H22～H25年度)
2. 道外観光客への意識調査 (→行動目標1, 2に対応)	道外観光客の道内観光実態、オホーツク地域でのEV利用意向の把握(H23年度)
3. EV普及促進 (→行動目標3に対応)	HP作成・運営、地域イベントへの参加、オホーツクEV大学への協力等でのEV関連情報の発信(H22～H25年度)
4. ゼロエミッションに向けた検討 (→行動目標1, 2に対応)	観光におけるEV利用モデル検討、既往研究を踏まえた充電設備配置検討、航続可能範囲・情報提供手段検討(H24～H25年度)

【各活動のまとめ】

1. モニター実験 [H22～H25年度]

- ▶ 主要な観光拠点の周遊は可能
…一充電走行距離は夏～秋:最大約130km、冬:最大約100kmであり、地域内拠点間は概ね電欠なく周遊可能。
- ▶ 充電設備の拡充、航続距離の延伸等に関する意見があった
…EVの課題に関する意見として「充電設備の拡充」が最も多く、次いで「航続距離の延伸」が多い。
- ▶ EVの航続距離や充電設備に関して情報を求める意見があった
…充電設備の位置や充電時間の情報等を求める声がある。

2. 道外観光客への意識調査 [H23年度]

- ▶ 道外観光客はEVレンタカーのニーズを有する
…オホーツク地域の旅行において道外観光客の5割以上がレンタカー利用を希望、また自動車利用を希望する道外観光客の8割はEV利用意向あり。
- ▶ 道外観光客は道内外の発着拠点として新千歳空港を多く利用
…オホーツク地域を旅行する場合でも、発着のいずれかでの新千歳空港利用者は4割強を占める。一方、女満別空港を発着地とする場合は1割強。

3. EV普及促進 [H22～H25年度]

- ▶ オホーツクEV協議会HPによる発信
…協議会の取り組みやキャンペーン開催情報等を発信。
- ▶ 地域イベントへの参加
…地域イベント等開催時にEVの展示や試乗会を実施。(平成22年度～25年度までに計14回開催。)
- ▶ ポスター、リーフレット、のぼりの製作・設置
…ポスターやリーフレット、のぼりを製作・設置し、協議会活動をPR。

